

「神は私たちの苦しみを聞いてくださる」

ヨブ記 36章15節

日本基督教団 牛込弘方町教会牧師・本学講師 山ノ下恭二

皆さんは、自分が苦しい時にどのようにその苦しみに対処しますか。辛い経験をした時に、皆さんはその辛い経験をどのように乗り越えようとしていますか。シェークスピアは「リア王」と言う作品の中で「悲しみにも友があり、耐え忍ぶにも仲間がいるとなれば、心の苦しきも大分、楽になるものだ。」と語っています。友達に自分の苦しみや悩みを話すことで、大分、楽になります。

私たちは一人一人、苦しみや悩みを抱えています。その悩みを音楽を聴いたり、気分転換をしたり、友達に話すことで解消できれば良いのですが、耐え難い苦しきは、簡単には解決できないのです。

ある日の朝、6時ごろ、新聞を取りに、郵便受けに取りに行くと、教会の玄関にどこかで見たことのある青年が立っていました。その青年は私に「迷える小羊です。」と言い、私に近寄って来ました。その青年は、聖学院大学で、私がキリスト教概論を教えた学生でした。朝、4時から教会の玄関で私が出て来るのを待っていたようで、それだけ、話したいことがあったのです。その青年を教会に招き、一緒に朝食を戴きながら、その青年が抱えている悩みや苦しみを聞くことができました。近くの会社で働いているのですが、夜勤が多く、とても疲れるので、今の仕事を止めたいと言うことでした。その卒業生は話を終えると、自分の悩みを聞いてくれてありがとう、と言って帰りました。

この後、しばらくしてこの卒業生が通っていた教会の牧師に連絡を取ったところ、この卒業生は転職して今は元気に働いていると言うことです。

旧約聖書には、耐え難い苦しみを経験したヨブが登場します。自分の財産を奪われ、自分の息子、娘も事故で亡くし、ヨブ自身も病に苦しみます。そのことを聞いた3人の友人がヨブを慰めようと話しかけます。この友人たちは、ヨブが苦しむのは、原因がある、それはヨブが悪いことをした、罪を犯したからだと言います。しかし、ヨブは納得しません。私たちも悪いことが続くと、自分が悪いことをしたので、罰を受けていると思うことがあります。しかし、ヨブには心当たりがありません。

それで、ヨブは神に訴えます。自分は悪いことをしていない、悪いことをしているのは、神のほうだ、神を告訴するとまで言っています。自分が何か、過ちがあって苦しむのなら、納得できる、しかし、自分が別に悪いことをしていないのに、なぜ苦しむのか、分からないのです。自分一人で苦しむのはとても辛いことです。

ヨブと三人の友人との問答を聞き、そしてヨブが自分は悪いことをしていないので、神が悪いのだ、と訴えている、その場面をそばで聞いていた人がいました。若者のエリフと言う人物です。私は今までヨブ記を読んで来まして、エリフの語っていることに注意をして来なかったのですが、エリフが語っていることに関心を持ったのです。このエリフと言う人は、神の立場を弁護して、ヨブに語りかけるのです。苦しんでいるヨブに神は何も答えないし、何もしてくれないとヨブは思っているのです。しかし、エリフはそのようなことはないと言っています。神は人間には分からないところで、配慮している、心配りをしていると語ります。

人間が寝ている時に、夢の中で神は語っているが、それに気がつかないだけだ、二度も、三度も人間の魂を救おうとされるのだ、と言います。しかし、人間は神の配慮に心を留めないだけだ、と言うのです。

確かに、解決できない問題で苦しんでいる時に、暗い穴に落ち込んでしまっ、明るい光をみる事ができないのです。どうして良いのかわからない時に、解決の道を見いだすことができないのです。し

かし、神は私たちが苦しんでいる時に、私たちの叫びを聞いていてくださるのです。

今日の全学礼拝で読みました、ヨブ記36章15節には「神は貧しい人をその貧苦を通して救い出し苦悩の中で耳を開いてくださる」と書かれています。

神は耳を開いて、私たちの苦しみを聞いていてくださると、語ります。

私は北九州の教会の牧師をしておりました時に、いのちの電話の傾聴ボランティアをしていました。週に一回、月曜日、6時から11時まで、電話での話を聞いていました。自殺の予告のような深刻な電話もありました。このいのちの電話は向こうが電話で話すのを止めない限り、電話を切ることはいけないこととしていました。とても長い電話を受けたこともあります。3時間位、相手の話を聞いたことがあります。

ある時、小学生らしい女の子から電話がかかってきました。最初に何を言ったのかと言うと「よく効く水虫の薬を知りませんか」と言うのです。この話を聞いて、すぐに「この薬が良く効きますよ。」と反応してしまうかも知れません。しかし、いのちの電話にかけてくる人は深い悩みをもって聞いているのです。知らない人に、自分の悩みをすぐには言えないのです。親しい友人には「おれ、悩みがあるんだけどさー」とは言えるかも知れませんが、初めて会う人や知らない人にすぐに「悩みがある」とは言えないでしょう。

この女の子の話を聞いていたら、どうも学校でクラスのみんなから「水虫」と言われて、いじめられていることが分かってきました。初めから「自分はクラスのみんなから、水虫、水虫、といじめられているんです。」とは言えないので、「水虫の薬を知りませんか」と言ったのです。

この女の子がどのようにいじめられているか、その話を聞いているうちに、来年の4月にはクラス替えがあることが分かってきました。「4月にはクラスが変わるんです」と言いましたので、私は「4月になるとクラスが変わるんだね」と念を押したら、「そうか、3月まで我慢すれば良いのだ」と言って、少し安心したのか「話を聞いてくれてありがとう。」と言ってこの電話は終わったのです。

誰かが自分の悩みや苦しみを聞いてくれている、そのことによって、苦しみは軽くなるのです。自分のために、時間を取って自分の心の苦しみを聞いている人がいる、その人がそばにいる、ことはとても大切なことです。

ヨブは自分が苦しむことの原因が分からなくて、神に訴えます。ヨブ記38章以下で神は、ヨブの前に現れ、ヨブに語りかけます。しかし、なぜヨブが苦しむのか、その理由は一切、語りません。なぜヨブに苦しみがあるのか、そのことは全く答えないのです。これは謎のままなのです。

私たちもなぜ、自分が苦しまなければならないのか、他の人ではなく、どうして私だけが苦難を受けるのか、その理由が分からないことがあります。自分がいじめに遭ったり、不当な扱いを受けたり、差別されたり、理不尽な扱いを受けることがあります。そのような不条理に苦しみます。しかし、神はヨブの苦しみを聞いています。ヨブの悲しみを知っているのです。苦しみや悲しみを受け取っている神がいる、そのことを私たちが知っていることがとても大切なことなのです。深く同情する神がいる、そのことが私たちの魂を支えるのです。

その「同情」という言葉が新約聖書に出て来ます。「シンパシー」という言葉です。「シン」は「共に」、「パシー」は、「苦しみ」という言葉ですから、「共に苦しむ」という言葉です。共に苦しんでいる方がおられるのです。私たちの苦しみを共に苦しんでいる方がいるのです。この言葉が「同情する」と翻訳されているのです。その方こそ、イエス・キリストです。このイエス・キリストは、私たちの罪のために苦しみに遭われたのです。そのことは、ヘブライ人への手紙4章15節に記されています。「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、私たちと同様に試練に遭われたのです。」(新約 p405)

神は私たちの苦しみを耳を開いて聞いて下さっているのです。ヨブ記36章15節に「神は貧しい人をその貧苦を通して救い出し、苦悩の中で耳を開いてくださる」と語りかけています。

(祈り)

主イエス・キリストの父なる神様、愛する教師・学生と共に、あなたのみことばに耳を傾けることができましたことを感謝致します。私たちが悩む時に、あなたが耳を開いて、私たちの苦しみ、悩みを聞いてくださっていることを知りました。私たちは神の御前に祈り、あなたのみことばによって解決することができますように導いてください。聖学院大学のすべてをあなたが守り、導いてください。この祈りを主イエス・キリストによって祈り、願います。アーメン

2016年10月13日 聖学院大学 全学礼拝(シリーズ礼拝)